

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

資料1

令和 年 月 日

協議会名: 八雲町地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
有限会社 八雲ハイヤー	運行系統名: 熊石八雲線 運行区間: 八雲町熊石～鉛川～八雲総合病院 運行回数: 1,036回 運賃: 熊石エリア～八雲エリア 1,000円 熊石エリア～峠エリア 500円 八雲エリア～峠エリア 500円 熊石エリア内 200円 【車両原価償却費等国庫補助】	町ホームページやチラシの配布等、町内外に向けた継続した情報発信を行い、利用促進を図った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	B (事業の目標) 1日平均乗車人数 15人/日 熊石八雲間予約バスR4.10～R5.9実績 10.9人/日 昨年より4日稼働が多く1日平均乗車人数も増えたが、利用が伸び悩む便もあるため目標達成には至らなかった。 (年間利用実績) R5.10～R6.9 4,743人 運行日数 361日 1日平均乗車人数 13.1人/日 ※閏年	熊石地域から八雲地域への通学利用について学生には認知されている。自家用車を持たない町民や主に熊石地域の会合に参加し、情報発信していく。 高校生の利用が少ない2, 3, 5便を中心に利用促進を図る。
					<div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 40px; margin: 0 auto; display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> 1 </div>

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和 年 月 日

協議会名:	八雲町地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>八雲町は北海道の南部渡島半島の中北部にあって渡島半島を横断し、西は日本海、東は内浦湾(太平洋)に面し東西44.29km、南北41.31kmで、総面積は956.08km²である。人口は、15,844名(令和2年度国勢調査より)。</p> <p>近年では人口減少・高齢化が進んでおり、このうち65歳以上の人口比率は、急激に上昇しており、今後も加速し続けていくことが想定される。町内全域での高齢化や公共交通機関に頼らざるを得ない町民の増加により、公共交通の維持・確保の必要性が近年増しているなかで、熊石・八雲間は、高校、JR八雲駅、病院、公共施設、商業施設などの主要施設や、近隣町を結ぶ重要な位置づけにある。</p> <p>令和3年10月から運行している熊石八雲間予約バスは、令和2年10月より、江差・八雲間の北海道の補助金が打ち切られたことによる新たな路線として、熊石・八雲間を結ぶ重要な路線であり、高齢者や免許を取得できない高校生等、交通弱者の移動手段として利用されている。これからも必要不可欠な路線であることから、効率的かつ持続的な公共交通を地域に密着させるため、利用者の確保を図ることを目的とする。</p>

八雲町地域公共交通協議会における地域公共交通確保維持改善事業の概要

事業実施の目的・必要性

八雲町では人口減少・高齢化について今後も加速し続けていくことが想定される。町内全域での高齢化や公共交通機関に頼らざるを得ない町民の増加により、公共交通の維持・確保の必要性が近年増しているなか、令和3年10月から運行している熊石八雲間予約バスは、令和3年9月30日の運行をもって廃止となった江差・八雲線の新たな路線として、熊石・八雲間を結ぶ重要な生活路線であり、交通弱者の移動手段として利用されている。

これからも必要不可欠な路線であることから、効率的かつ持続的な公共交通を地域に密着させるため、利用者の確保を図ることを目的とする。

地域公共交通の現況

- ・函館バス株式会社(複数自治体路線 3路線)
- ・JR北海道 函館本線(6駅:八雲、黒岩、山崎、山越、野田生、落部)
- ・ハイヤー(4社: 有限会社八雲ハイヤー、エスジーハイヤー株式会社、有限会社旭ハイヤー、合同会社キャンタク(福祉輸送))
- ・スクールバス
- ・患者輸送バス
- ・熊石八雲間予約バス、檜山海岸線予約バス

生活交通確保維持改善計画の目標

1日平均乗車人数 15人/日

(※参考 熊石八雲間予約バス 令和4年10月～令和5年9月実績 10.9人/日)

車両取得に係る定量的な目標についても上記同様。

協議会開催状況

- ・令和6年4月4日 第1回協議会を開催
主な協議事項 令和5年度事業報告及び収支報告等
- ・令和6年6月13日 第2回協議会を開催
主な協議事項 令和7年補助年度地域内フィーダー系統確保維持計画及び公共交通計画策定業者指名について協議・承認
- ・令和7年1月15日 第3回協議会を開催
主な協議事項 地域公共交通確保維持改善事業及び地域公共交通調査等事業に関する評価について

令和6年度事業概要

運行系統名: 熊石八雲線

運行区間: 八雲町熊石～鉛川～八雲総合病院

運行回数: 1,036回

運賃: 熊石エリア～八雲エリア 1,000円 熊石エリア～峠エリア 500円 八雲エリア～峠エリア 500円 熊石エリア内 200円

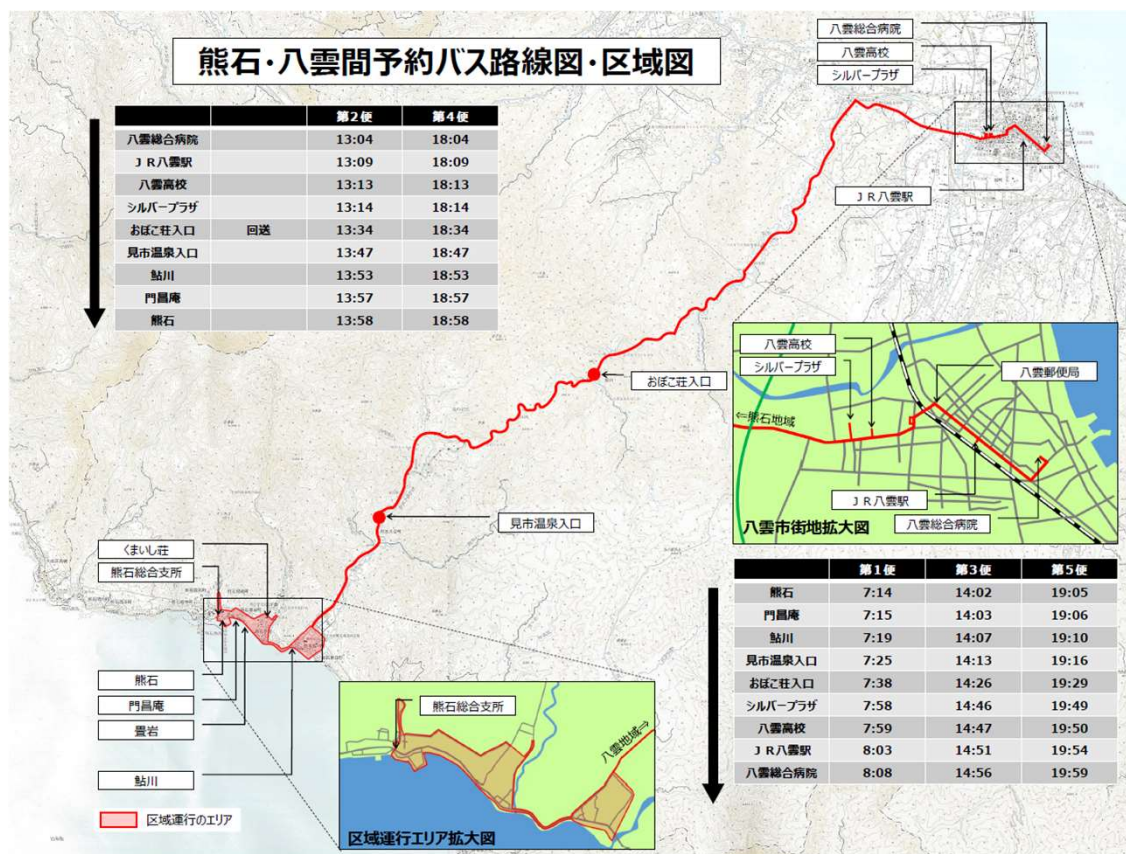
※障がい者割引あり

令和6年度事業の実施状況

1) プロセス、創意工夫

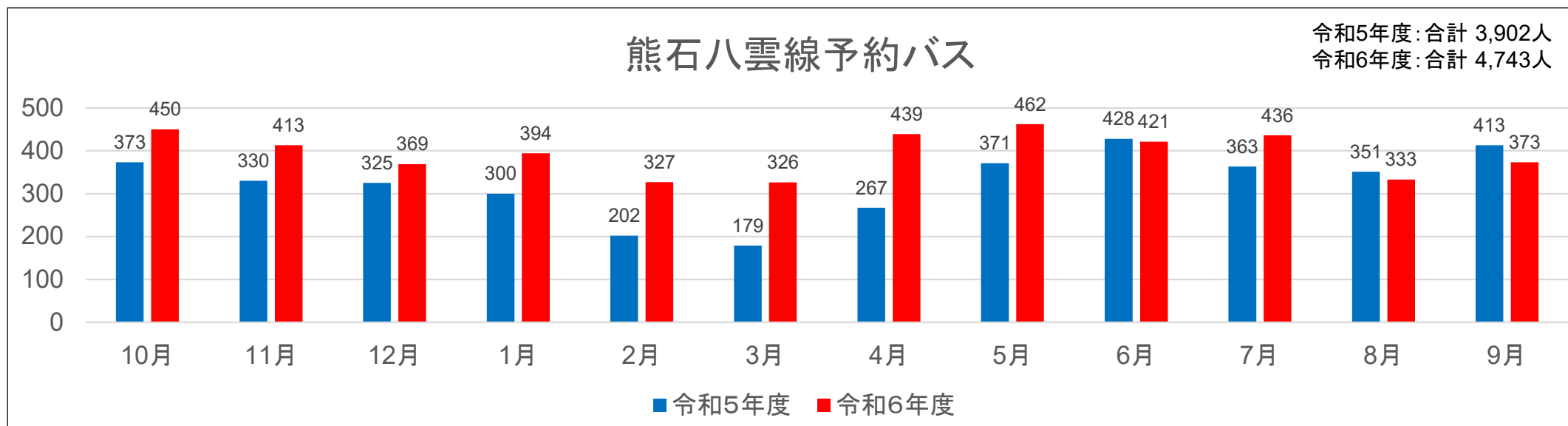
- ・町のホームページ周知
- ・各町内施設等に時刻表の設置
- ・1便の利用に関して、接続するバス(檜山海岸線予約バス)と、1便の発車する時刻に少し時間があるため、バス内で待機できるよう早めに到着するようにしている。(特に冬などを考慮)。

2) 運行系統



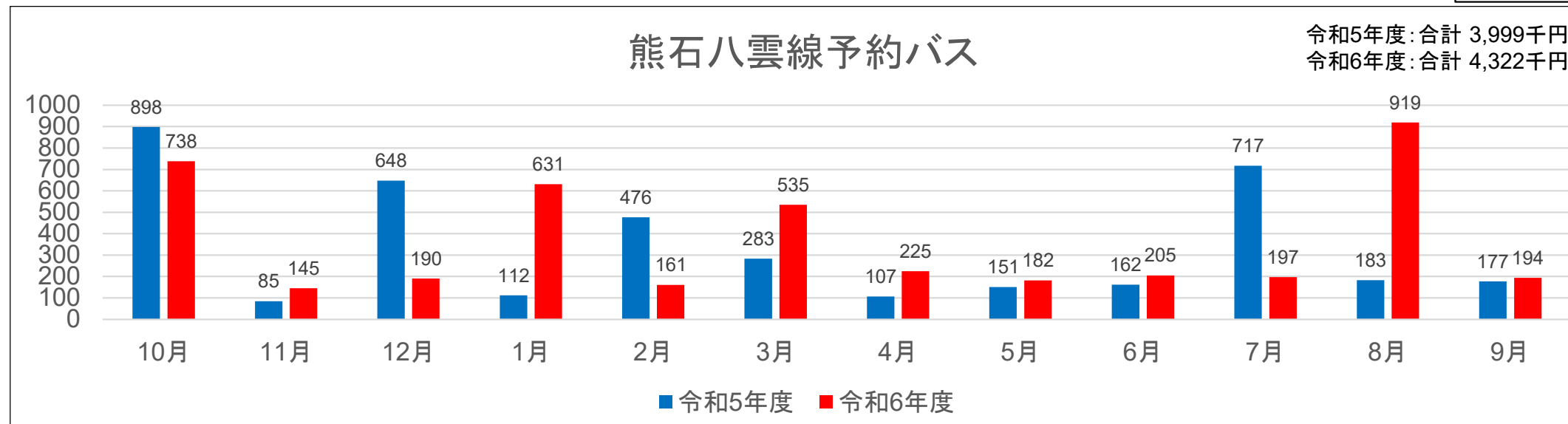
3) 利用実績

単位:人



4) 収入実績

単位:千円



5) 事業実施の適切性

計画通り、事業は適切に実施された。

6) 目標・効果達成状況

【事業目標】

・1日平均乗車人数 15人／日

(熊石八雲間予約バスR4.10～R5.9実績 10.9人／日をベースかつ熊石地域から八雲高校へ進学を考慮して目標値を設定。年間利用実績R4.10～R5.9 3,902人)

・1日平均乗車人数 13.1人／日 目標達成率 87.3%

(年間利用実績 R5.10～R6.9実績 4,743人)

R3.10月開始から3年を迎え、当路線の認知度は上がっているものの、高校通学人数に大きく左右されている。1日平均乗車人数は昨年度から増えたが、目標は未達となっている。

※生活交通確保維持計画と車両取得に係る定量的な目標値についても同様。

7) 事業の今後の改善点

・当路線の認知度を上げるため、継続して町ホームページやチラシの配布等行うとともに、熊石地区の高齢者の集いの場などに参加し、事業説明を行う。

・八雲町地域公共交通活性化協議会で、バスの無料体験会などを企画し、公共交通の利用促進を図る。

・運行に関して、ニーズに合った路線、ダイヤ等、必要に応じて協議を図り、地域に合った路線を構築していく。

・5便の利用増の取り組みについて、対象者が絞られる(単身の方など)ため、特に国保病院での周知に力を入れる。

8) 地方運輸局等における二次評価結果(案)

運輸局記載欄